



農林中央金庫



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

産業ファンド投資法人

2024年2月15日

農林中央金庫

産業ファンド投資法人

農林中央金庫・産業ファンド投資法人による サステナビリティ・リンク・ローンの契約締結について

農林中央金庫（代表理事理事長：奥和登、以下「農林中金」）と産業ファンド投資法人（執行役員：本多邦美、以下「産業ファンド」）は、サステナビリティ・リンク・ローン（以下「SLL」）による金銭消費貸借契約（以下「本契約」）を本日締結いたしました。

SLL は、借り手の経営戦略に基づくサステナビリティ目標と連携したサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（以下「SPTs」）を設定し、貸付条件と SPTs の達成状況を連動させることで、借り手に対して目標達成に向けた動機付けを促し、環境・社会の面から持続可能な事業活動および成長の支援をしていくことを目指すものです。

産業ファンドは、「日本経済の力を生み出す源泉としての社会基盤に投資し、日本の産業活動を不動産面から支えていく」という理念の下、資産運用を委託する株式会社 K J R マネジメント（以下「資産運用会社」）とともにサステナビリティの考え方を共有し、取組みを推進しています。資産運用会社は、サステナビリティ考慮に関する方針として、「環境憲章」および「サステナビリティ基本方針」を制定しており、産業ファンドは資産運用会社の定めた方針に準じて活動を行っています。資産運用会社は、サステナビリティの重要性を早くから認識し、資産運用会社として環境・社会・ガバナンスに関連する活動を推進してきました。そこから、国連が推進し、新たにグローバルにおける共通目標となりつつある「持続可能な開発目標（SDGs）」に呼应すべく、マテリアリティ（重要課題）とそれに関連性の強い SDGs 目標を取り入れ、環境負荷の低減・社会的価値の創造・すべてのステークホルダーのための健全な資産運用を通じて、持続可能な社会の実現を目指して取組みを進めています。

農林中金は、自らの存在意義（パーパス）を「持てるすべてを「いのち」に向けて。ステークホルダーのみなさまとともに、農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、持続可能な地球環境に貢献していきます」と定めています。そのうえで、2021年5月に公表した中長期目標においては、2030年度までに累計10兆円のサステナブル・ファイナンス新規実行を掲げるなど、サステナブル経営の実践を進めています。農林中金は、産業ファンドのサステナビリティ経営にかかる長期ビジョンの理念に共感し、本契約に基づく資金供給を通じて産業ファンドの取組みを後押ししていくとともに、農林水産業との関連が大きい気候変動問題の解決に貢献していきます。

なお、本契約では、産業ファンドが2030年までにGHG排出量（Scope1+2）を42%削減（2021年対比）することをSPTsに設定いたしました。

また、本契約の締結にあたっては、SLL原則等への適合性について、農林中金が外部評価^{（注）}を付与しており、上記SPTsについては、野心度および有意義性等の観点からSLL原則等に適合していると評価しています。

【本契約の概要】

実行日	2024年2月29日
融資期間および金額	契約① 8年 30億円 契約② 9年 40億円 契約③ 10年 30億円 合計 100億円

【本件ローンが貢献する主な SDGs】



【参考リンク】

産業ファンドの ESG サイト

https://iif-reit_sustainability.disclosure.site/ja/

【本件に関するお問い合わせ先】

農林中央金庫 コーポレートデザイン部 広報コミュニケーション班（宮澤・水元） 03-6362-7172
産業ファンド投資法人 03-5293-7091

以上

（注） 農林中央金庫では、SLL にかかる借り手の SPTs の野心性等を評価する独自の融資フレームワークを設けています。本フレームワークは、第三者評価機関である株式会社格付投資情報センター（R&I）から、「グリーンローン原則」、「サステナビリティ・リンク・ローン原則」、「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン 2022 年版」に対して総合的であるとの第三者意見を取得しています。